

平成26年10月31日

愛知県地域包括ケアモデル事業、在宅医療連携拠点推進事業 合同報告会

受託事業名（在宅医療連携拠点推進事業）

事業体験に基づく考察

愛知県・一宮市委託事業者

一般社団法人一宮市医師会 事務局 榊原 丈晴

1. 当地域の特徴

過去の取り組み

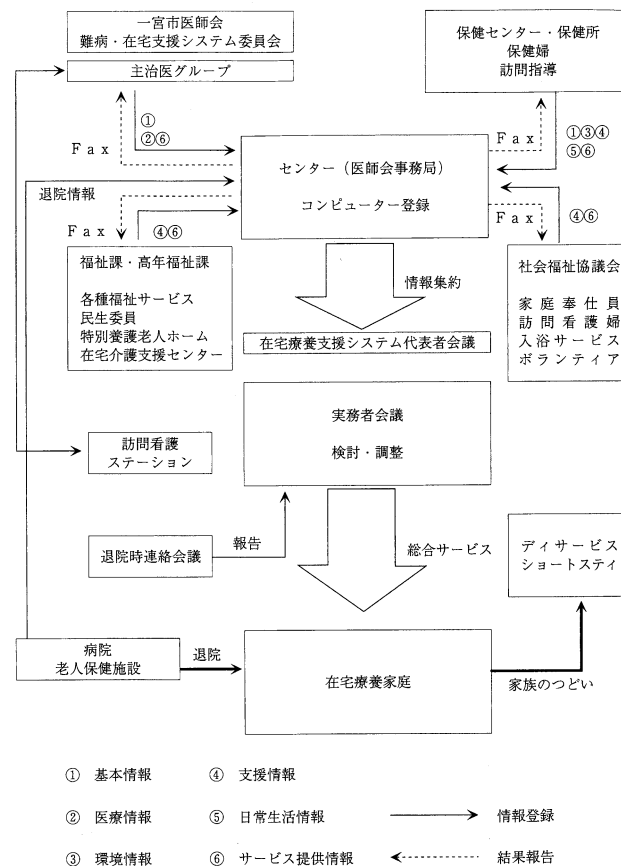
一宮市在宅療養支援システム 事業実施報告書

在宅療養支援システム (S63.3～H12.3)

- ・実施主体：一宮市医師会
- ・登録医師(86名)
- ・登録患者(387名)
- ・実務者会議(月1回)
- ・退院時連絡会議(153回)
- ・FAX網整備
- ・患者データ一元管理

平成13年9月

図① 一宮市在宅療養支援システム事業の概要



当地域の強み

■ 積極的な医師会・在宅医

- 行政任せではない医師会
- 医師会任せではない在宅医

■ 充実の医療・介護資源

- 豊富な施設数
- 各施設の創意工夫と高い責任感

医師から 建設的意見が得られやすく
施設レベルの **在宅連携実績** もある

当地域の弱み

■ 最適な拠点事務局がない

- 一宮市：現状業務多忙で事業遂行困難
- 医師会：在宅医療業務は未経験

■ 地域の課題を掌握する機関がない

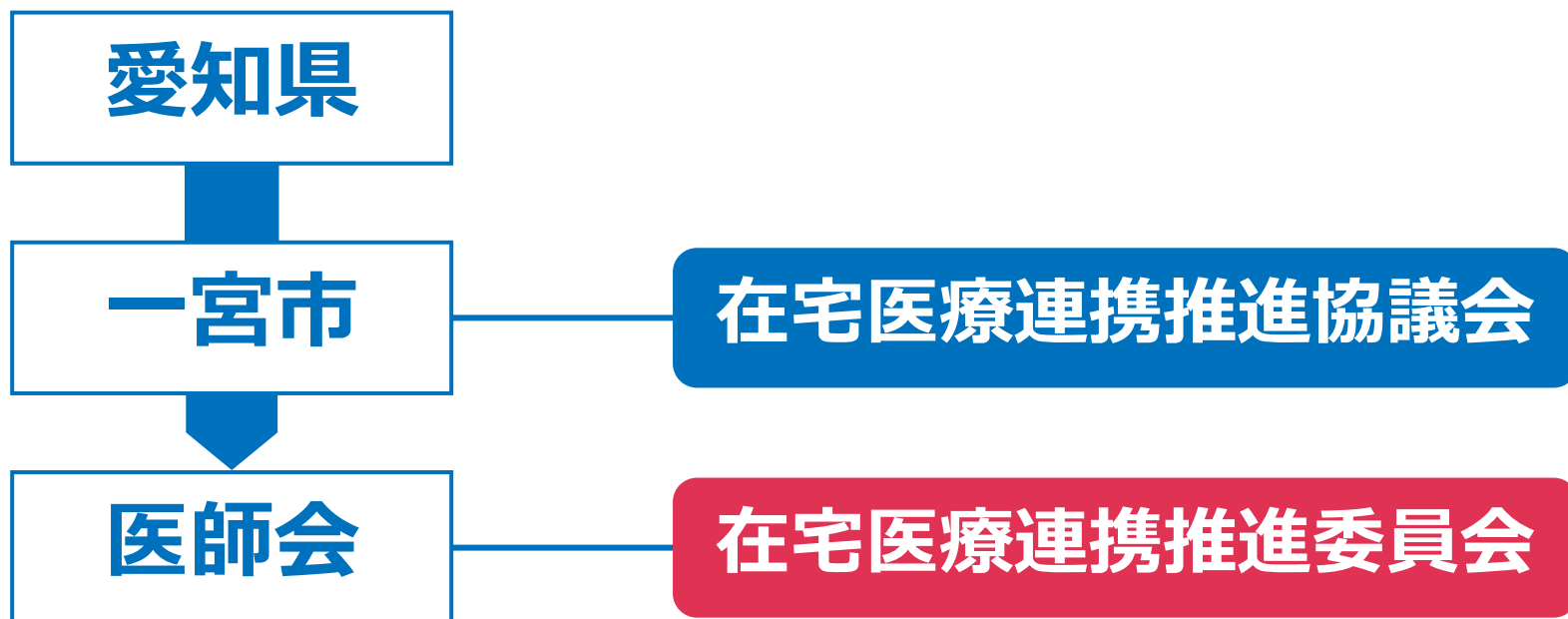
- 在宅医療は各施設に任されている
- 市も医師会も現状を把握していない

組織的・公的・面的 に
事業を実施することが難しい

2. 担当組織

事業の枠組み

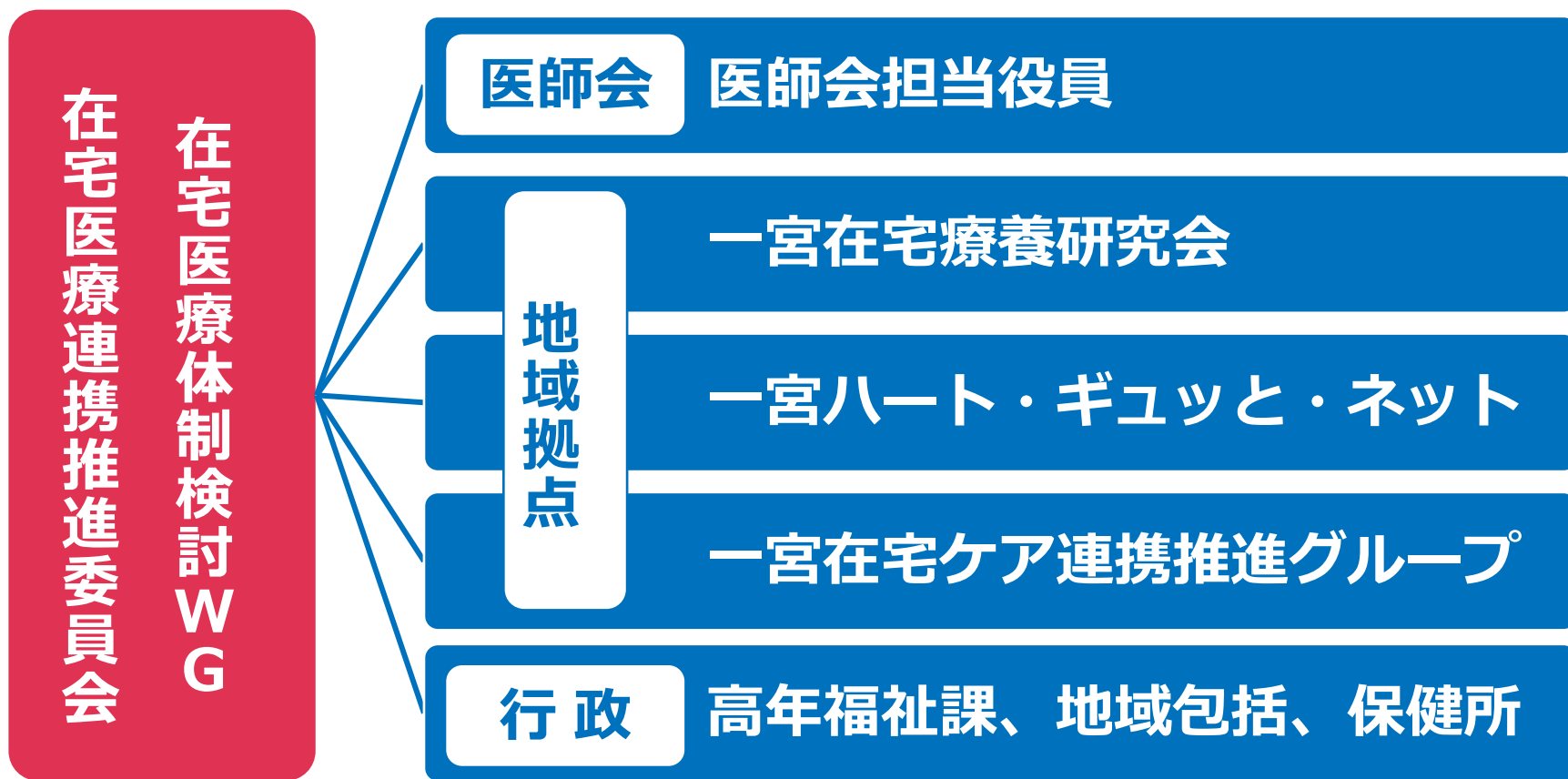
市が事業受託し 医師会に全面委託



医師会 (在宅医) の積極性 を原動力に
組織的・公的・面的 な流れをつくる

検討体制

医師会 と 地域拠点 による会議体制 (在宅医)



地域拠点

■ 一宮在宅療養研究会

強化型支援診療所 11施設のグループ

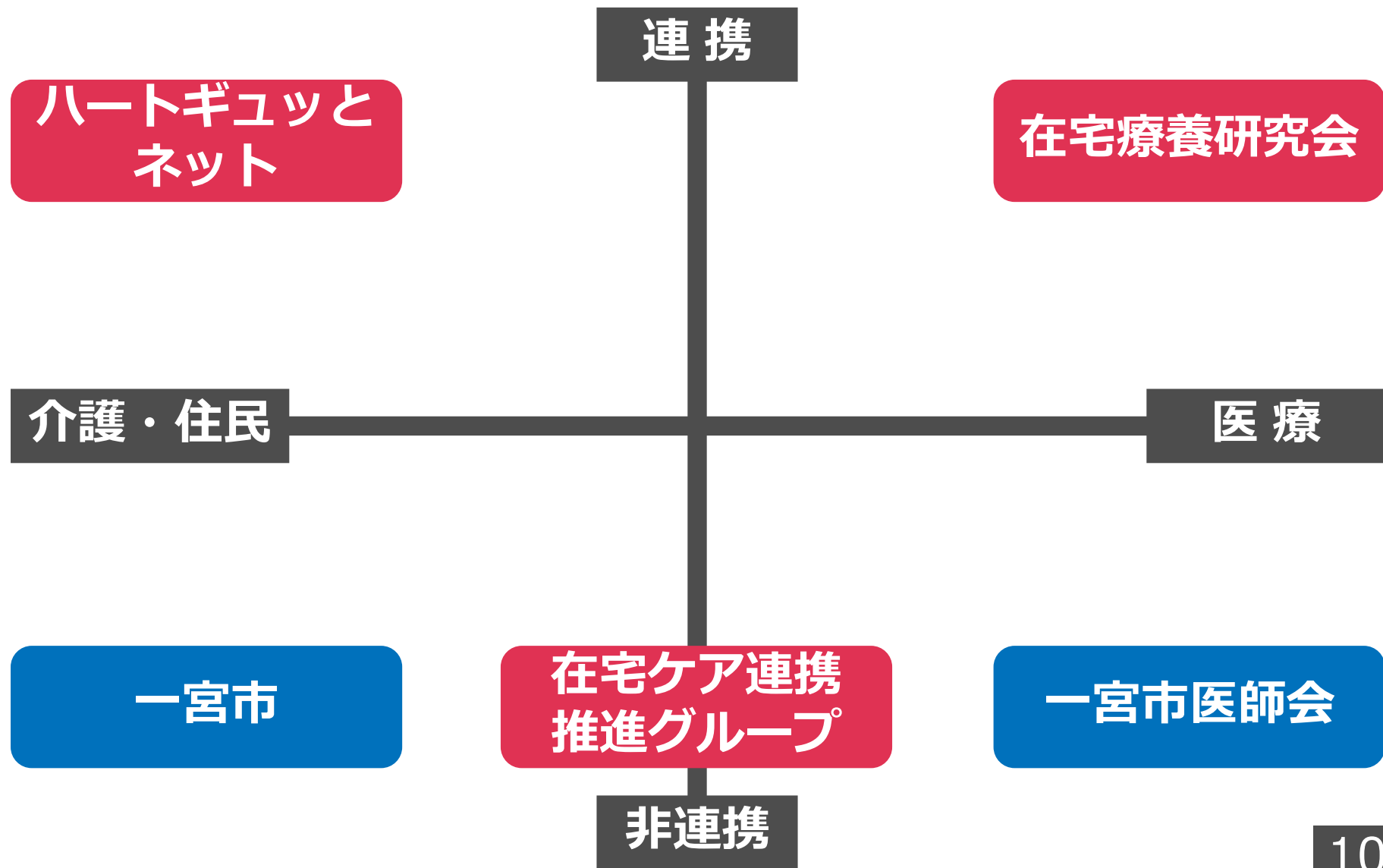
■ 一宮ハート・ギユツと・ネット

H24 厚労省在宅医療連携拠点推進事業者

■ 一宮在宅ケア連携推進グループ

市内唯一の在宅療養支援病院 開設法人

各組織の特性



事務局

医師会事務局 が拠点事務局を担う

市 高年福祉課

課長・副主監(事務官2)・担当(保健師2) 4名
愛知県との事業窓口
協議会の運営事務
委員会等の会議への出席・意見

医師会事務局

事務局員 1名 (事務官、医師会業務と兼任)
諸会議の運営事務・説明
原案検討・調整業務・情報収集
会計処理・資料作成・進捗管理

地域拠点実務担当

実務担当 1名×3拠点 (医師1・事務官2)
委員会等の会議への出席・意見
事業施行運用の実施
会計処理・資料作成・進捗管理

拠点事務局の現状・課題

■ 現状

- 医師会職員として医師に密着できる
- 非専従ゆえの業務停滞が目立つ
- 専門外のため課題に気づきにくい

■ 課題

- 医師会事務局における雇用の難しさ
- 専門的かつ地域に根付く人材の確保

補助事業 という認識が
人材確保を **困難** にする

3. 顔の見える関係作り

アウトリーチ

■ 拠点事務局担当

居宅介護支援事業所の情報提供様式統一を目指すため、MSW・ケアマネジャー会の各会長を訪問し、検討会への協力を依頼



検討会の形でMSWとケアマネジャーの各会役員が定期的に集う場の実現



様式統一以外の話題も拝聴できる機会に

在宅医グループ間の交流

■ 在宅医療連携推進委員会

委員会を毎月開催し、これまで直接の交流がなかった在宅医グループ間での意見交換が実現



お互いの得手不得手、共同して取り組むべき事項、考え方の相違を確認できた



医師会と各グループ間の距離も近づいた

4. 運命共同体の設置と課題

在宅医療連携推進協議会

地域ケア会議 を基に 一宮市 が設置

行政

福祉子ども部長（協議会長）
市民健康部長
一宮保健所長

医療

医師会長（副会長） 歯科医師会長 薬剤師会長
医師会理事 一宮市民病院地域医療連携室長
一宮ソーシャルワーカー連絡会長

介護福祉

社会福祉協議会長
ケアマNET一宮会長
地域包括支援センター代表

協議会の効果・課題

■ 期待される効果

- 公的事業であることを象徴する機関
- 全職種の事業への当事者意識を促進

■ 課題

- 市内関係者に広く認知されているか
- 第三者から見て公平公正な人選か

5. 地域の課題と解決策

地域課題の変化

■ 事業開始前の設定課題

新たな在宅医のすそ野を広げなければ
今の在宅医に負担が集中する

➡ 在宅医療参入医師を増やす

■ 事業開始後に見えてきた課題

多職種との連携が図りづらいことへの
在宅医の不満がある

➡ 多職種の情報共有体制を構築する

地域課題の解決策

■ 課題変化の背景

- 在宅利用者情報様式がバラバラ
- 他の事業所と連携しづらい

➡ **在宅医が現状に不満を感じている**

■ 解決策

- 患者基本情報の市内共通様式の検討
- ICT導入による双方向・効率的な運用
- 在宅医による連携モデルの構築

➡ **モデルに新規参入医師を呼び込む**

6. 前半の振り返りと改善策

事務局体制

■ 振り返り

- 現状：医師会職員1名（事務官・非専従）
- 庶務的業務で大半が費やされる
- 新たな問題や課題に対応できない
- 場当たりの対応が目立つ

■ 改善策

- 専従者・専門職（MSW or ケアマネ）配置
- 複数人体制（専門職＋事務官1～2名）

アウトリーチ・情報収集

■ 振り返り

- 医師とのコミュニケーションは良好
- 多職種の本音や課題把握が不十分
- 用件を電話やメールで済ます
- 地域情報収集は下半期実施

■ 改善策

- 医師会業務（内勤）の延長で仕事しない
- 把握している会合に参加する

ロードマップ進捗

■ 振り返り

- 当初は医師会も地域拠点も、5つの事業タスクに沿って実施していた
- 特に地域拠点は特性があり、できた点とできない点が明らかとなった
- 地域拠点ごとにタスクを分けて実施した方が効率的であった

■ 改善策

- 地域拠点は得手のタスクに特化して実施する
- 共通課題を医師会で推進する

下半期の主要ミッション

■ 医師会

会議運営・資源可視化・次年度検討

■ 在宅療養研究会

ICT運用・ケアカンファレンス・人材育成

■ ハート・ギユツと・ネット

ICT運用・多職種研修・住民啓発

■ 在宅ケア連携推進グループ

ICT運用・後方支援体制・住民啓発

7. 当地域の特徴的な活動

ホームページリニューアル

■ 医療介護資源の可視化事業

- 在宅医療項目での診療所検索
- 介護関連施設のリスト化
- 在宅医療ページの新設
- 会員専用ページの新設
- 健康情報番組（ケーブルTV）動画配信
- デザイン大幅刷新

平成27年3月リニューアル予定

8. 来年度に向けて

今年度中に行うこと

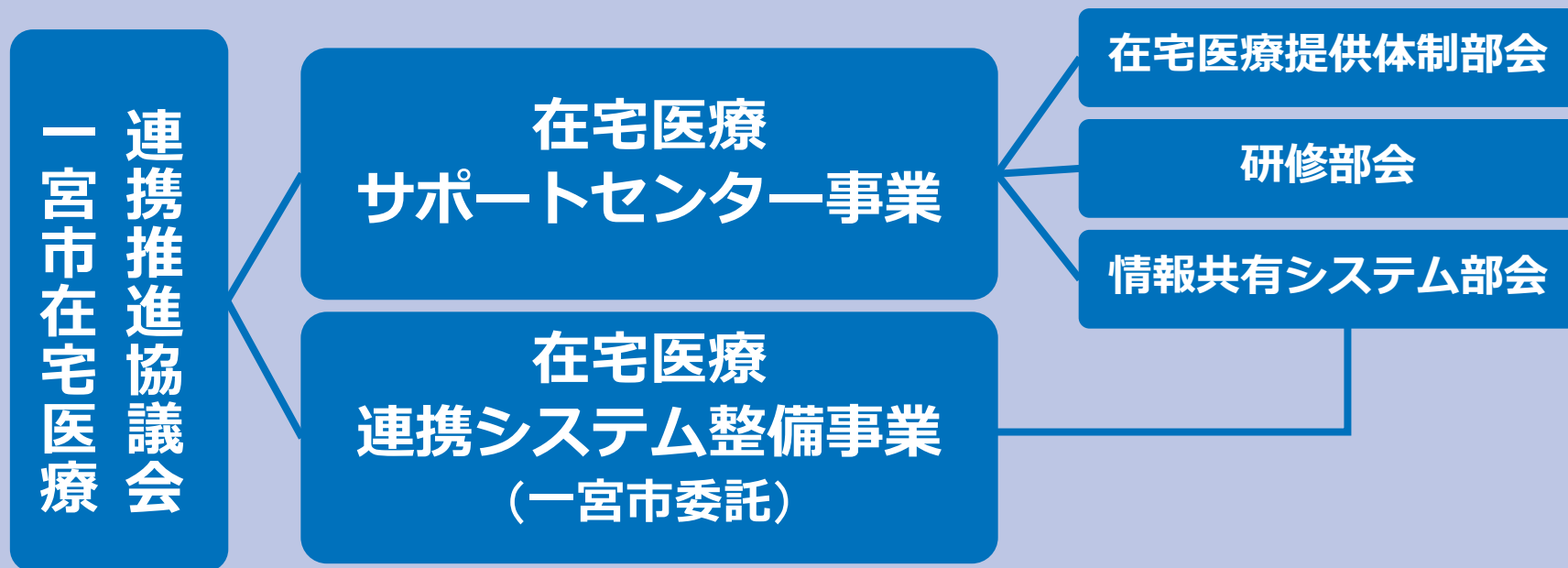
- 資源可視化（医師会HPリニューアル）
- ICTシステム導入・運用ルール決定
- 患者基本情報様式の市内統一
- 多職種連携研修会の実施
- 在宅医療市民フォーラムの実施
- 次年度協議会構成員人選
- 次年度会議体制の検討・構成員人選
- 稲沢市医師会との広域事業協議
- 拠点事務局の専従者人選

来年度に行うこと

- 在宅患者急変時の後方支援に関する検討
- 退院調整や医療介護の連携ルールの検討
- 在宅医療相談窓口に関する検討
- ICTシステム・患者基本情報共有様式の進捗管理・課題検討
- 個人情報取り扱いに関する検討
- 在宅医療参入医師の動機づけ研修の検討
- 在宅医療多職種研修の検討

来年度以降の体制（たたき台）

医師会



一宮市

地域支援事業

問い合わせ先

一般社団法人 一宮市医師会 事務局

担当者：榊原

メール：ishikai5@orihime.ne.jp

T E L：0586-71-7531

F A X：0586-72-1447

住 所：一宮市貴船町3丁目2番地

